

大崎市



ふかやかぐら
深谷神楽

深谷神楽は、大正 14 年 11 月に、大崎市鹿島台深谷の地で不動堂神楽師匠家子元之進、佐藤琢治から伝授され誕生した神楽です。

伝授元の不動堂神楽は明治 32 年頃、遠田郡美里町不動堂の青年達からの要望で、志波姫の南部笹流迫神楽師匠鹿野巳代吉から教えを受け発足した神楽で、現美里町地域（小牛田・南郷）で熱心に普及活動を行っていたのが、この深谷の地に伝承された発端とされています。

初代は座長角田養蔵以下 10 人程で構成されており、品井沼干拓が長年行われてきた場所であることから、収穫が行われる秋には、天の恵みに感謝し、毎年鹿島台地域の祭りの中心的な役割を担ってきました。昭和 7 年には佐々木勝太郎、荒重雄を中心に 2 代目が跡を継ぎ、芸が磨かれ充実した神楽になっていったとされています。

演目には、三番叟さんぱそう、素盞男命すさのおのみこと、日本武尊やまとたけるのみこと、義経の東くだり、橋弁慶はしべんけい、一の谷、八幡舞、八太郎、葛葉の別れ、西宮、彦保母舞、両若舞、岩戸開き、鞍馬破り等があります。

昭和 48 年（1973）1 月 29 日鹿島台町指定無形文化財、平成 18 年（2006）市町村合併により大崎市指定無形民俗文化財に指定されています。